

PART
02

ワインを楽しむ



1 ワインの選び方

ワインを楽しもうとする時に、ワインのスタイルや風味、産地に加えて、そのTPOを考えることもポイントです。こういった点をソムリエや酒販店のスタッフに伝えてからワインをすすめてもらうのもよいでしょう。

味の好みや人数（アルコール耐性や飲むであろう本数）、カジュアルな会なのか、フォーマルな会なのか（価格の目安がわかります）もポイントです。

飲む時の季節や気候、時間帯によってもおいしく感じられるワインが変わってきます。もちろん好みもありますが、たとえば、夏のテラス席のランチならば、よく冷やした軽めのロゼワインや白ワイン、冬のディナーならばしっかりした赤ワインなどがより魅力的に感じられるでしょう。

2 ワインのラベルには何が書かれてあるのか

酒販店に行くと、さまざまな産地やタイプのワインが並んでいます。その中から目的のワインをどのように探し出せばよいのでしょうか。

それにはまずワインの「顔」ともいえるラベルの読み方を知ることです。今、日本では世界中のワインが手に入りますが、原産国や生産者、ヴィンテージなどのほか、ワインのタイプなどがラベルに記載されていることも多くなっています。このうち、いくつかのポイントをおさえておきましょう。

①ワイン名

一番大きな文字で記載されていることが多く、生産者名やブランド名、あるいは原産地名や品種名などの場合もあります。

②原産国名

比較的小さな文字で記載されていることが多く、輸入ワインでは英語表記されるのが一般的です。

③ヴィンテージ

ワインに使用したぶどうの収穫年ですが、特に記載がない場合や裏ラベルに書いてあることもあります。



③ ヴィンテージ



生産者瓶詰め

NUITS-ST-GEORGES

① ワイン名

Appellation d'Origine Contrôlée

原産地統制
名称ワイン

Domaine Winekentei

12.5% vol.

France

750ml

④ アルコール度数

生産者名

② 原産国名

⑤ 容量

④ アルコール度数

通常は表のラベルに記載されています。また、輸入業者が貼る裏側のステッカーで確認することもできます。ワインのアルコール度数は13%前後が一般的です。12%未満であれば比較的低め、15%前後であればかなり高めといえます。

⑤ 容器の容量

750mlが一般的な容量ですが、その半分のハーフボトルや、2本分のマグナムボトルなどさまざまなサイズがあります。750mlの場合、標準的なワイングラスであれば6杯分（1杯125ml）となります。

⑥ その他

近頃は、ボトルの裏ラベルに、ワインのタイプや合わせる料理などが書かれてあるものも多いので、参考にするとよいでしょう。

また「軽い」「重い」などの表記が見られることもあります。白ワインで「軽い」という場合には、一般的に酸味が爽やかですっきりと飲めるタイプ、「重い」「しっかりした」という場合には、アルコール分に富み、酸味がまるやかな味わい持つタイプを指すことが多いようです。赤ワインで「軽い」という場合には、フルーティで渋味が軽いタイプ、「重い」「しっかりした」という場合には、複雑な味わいをもち、渋味と重厚さを備えた味わいを指すことが多いようです。